

【所報】 月報70号で、本年度夏季合宿研究会が、「1930年代研究の問題点」を共通論題として開催されたことを、スペースの関係でごく簡単にお知らせしたが、各方面からいまいし具体的な内容を知りたいとの強い希望が寄せられているので、以下に各テーマとその後の経過をしるして大方の参考に資したい。なお、合宿の日時決定後、四月来の紛争に起因する不測の延長補講のため、数名の報告予定者が参加できなくなったことを追記しておく。

既報のとおり、今回の研究会は、1930年代の世界が現代史に提起した、(1)1929年恐慌、(2)ファシズム、(3)社会主義の新段階、の三つの問題に、第一には世界と日本、第二にはその政治＝法と経済、そして第三に30年代と現代という、これまた三つの複合的視座のそれぞれからいかにアプローチしうるか、との問題意識から出発している。かような問題そのものの多面性を確認する必要から、比較的詳細なレジュメ（B4版コピー紙2枚程度）をあらかじめ報告者に提出していただき、参加者全員にそれを配布して予備的検討を加えた上で討論を組織するという態勢をととのえた。これは、時間的な制約の中で、多数の小報告 — それだけ密度の高い — を有機的な脈絡を保ちつつ積み重ねなければならなかったからである。

各報告のテーマと順序は以下のとおりである。

第Ⅰ部 30年代の世界経済と日本経済

- (1) 二瓶 敏「1930年代危機の歴史的な位置づけのために — 米英独の統計的検討 — 」
- (2) 玉垣 良典「日本資本主義における1930年代 — 経営と所有の対抗を中心として — 」
- (3) 吉家 清次「独占研究における『30年代』研究の意味 — アメリカ的現実についてのひとつのメモ」
- (4) 正村 公宏「現代資本主義と1930年代」

第Ⅱ部 30年代の世界政治と法理論

- (5) 大島 太郎「30年代世界政治の概観」
- (6) 西岡 幸泰「ワイマール体制の崩壊とファシズムの制覇」
- (7) 宮田 三郎「ナチスの公法秩序の構想 — C・シュミットの法思想 — 」

第Ⅲ部 30年代社会主義の諸問題

- (8) 宮坂 宏「1930年代の中国 — 『根拠地』における法体制 — 」
- (9) 隅野 隆徳「ソ連憲法の形成過程と30年代の社会主義法学」
- (10) 宮下 誠一郎「社会主義のイメージと価値論」
- (11) 栗木 安延「労働組合論における若干の基礎的問題について」

第Ⅳ部 1930年代の日本

- (12) 梅井 義雄「1930年代の三井財閥 — 日本の『大陸進出』との関係を中心に —」
(13) 加藤 幸三郎「1930年における三井財閥の実態（中間報告）」
(14) 玉城 哲「いわゆる昭和恐慌と日本農業 — 救農土木事業を中心として —」
(15) 打田 峻一「1930年代と私法＝財産法の動向」
(レジュメ参加 (16) 加藤 佑治「日本における全般的労働義務制展開の前提」)

およそ以上の編成のもとに、吉沢・正村・望月の三所員が順次座長をつとめて討論を進めた。各報告の論点が極度に煮詰められた形をとっているのと、前記の「問題点」に提示されながら報告として出てこない問題領域への論及を欠かせぬために、報告をめぐる応酬が白熱点に達したところで次の報告に移行せざるをえず個別的にはやや消化不良症状を示したことは否めないとしても、まる二日間の討論を通じて、「1930年代の世界と日本」という未踏の巨峰への、多面的な鳥瞰といくつかの登山口の発見という当初の課題は十分に消化されたとの印象を参加者一同がともにしたこと、これが最大の収穫であった。

休暇明け早々の事務局会議（9月9日）において、各報告者の了解を可及的すみやかにとりつけた上、以上の諸報告のレジュメを、必要な加筆と整理を加えてほぼ原型のまま、本月報に順次掲載してゆき、ポスト「近代化（特定研究）」の共同研究体制の核としてロング・ランでの培養をはかるとの方針が決定された。なお報告のいくつかは、月報論文にまとめられる予定である。

《編集後記》 多数の大学人・研究者・学生・市民の反対をおして、去る8月3日大学運営臨時措置法が成立した。衆議院の強行採決もさることながら、参議院においては、全く何らの法案審議もなされることなく、議長の詐術によってとしかいいようのない強行採決のされ方は、民主主義のルールを踏みじる暴挙と言うほかありません。戦後一旦は確立されたかにみえる民主主義も、政府与党自からの手によって、蹂躪されてきている現実の一こまといえましょう。民主的風潮は後退し、研究者・大学人をとりまく環境はますます厳しいものになるでしょうが、それでも真の学問・科学を生み出す努力だけは続けなければならぬものと思う次第です。

(M)

神奈川県川崎市生田4764
専修大学社会科学研究所 電話(044)91-7171 [内線63]
(発行者) 江 沢 譲 爾